

人口減少対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 平成31年 4 月 17 日 (水)
午前 9 時 30 分 開会
午前 11 時 16 分 閉会
- 2 場 所 第 3 委 員 会 室
- 3 出 席 委 員 委 員 長 奥 村 忠 俊
副 委 員 長 上 田 倫 久
委 員 足 田 仁 司、伊 藤 仁、
嶋 崎 宏 之、清 水 寛、
田 中 藤 一 郎、椿 野 仁 司
- 4 欠 席 委 員 なし
- 5 説 明 員 (別紙のとおり)
- 6 傍 聴 議 員 なし
- 7 事 務 局 職 員 主 幹 兼 庶 務 係 長 小 林 昌 弘
- 8 会 議 に 付 し た 事 件 (別紙のとおり)

人口減少対策等調査特別委員長 奥村 忠俊

人口減少対策等調査特別委員会 次第

日 時：平成 31 年 4 月 17 日(水)9:30～

場 所：第 3 委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

正副委員長 → 各委員 → 当局 → 事務局

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について <別紙「事務概要」>

【政策調整部】 政策調整課

【総 務 部】 ワークイノベーション推進室

【健康福祉部】 健康増進課

【環境経済部】 環境経済課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項 <別紙 1 >

(3) その他

ア 管外視察について

日 程：7 月 11 日（木）～12 日（金）

視察先（候補）：鳥取県智頭町・八頭町・倉吉市

島根県益田市

5 閉 会

人口減少対策等調査特別委員会重点調査事項

H31. 3. 19

- 1 移住・定住促進に関する事項
- 2 結婚支援・多子出産応援子育て支援に関する事項
- 3 産業振興等、地域活性化対策に関する事項
- 4 人口減少等にかかる諸課題に関する事項

人口減少対策等調査特別委員会名簿

【委員】

平成31年4月1日現在

職名	氏名
委員長	奥村 忠俊
副委員長	上田 倫久
委員	足田 仁司
委員	伊藤 仁
委員	嶋崎 宏之
委員	清水 寛
委員	田中 藤一郎
委員	椿野 仁司

8名

【当局】

職名	氏名	職名	氏名
政策調整部長	塚本 繁樹	政策調整課長	井上 靖彦
総務部長	成田 寿道		
総務部次長兼ワークイノベーション推進室長	上田 篤	ワークイノベーション推進室参事	岸本 京子
健康福祉部長	久保川 伸幸	健康増進課長	宮本 和幸
環境経済部長	坂本 成彦	環境経済課長	柳沢 和男

9名

【議会事務局】

職名	氏名
主幹	小林 昌弘

18名

午前9時30分開会

○委員長（奥村 忠俊） それでは、ただいまから人口減少対策等調査特別委員会を開催いたします。

一言ご挨拶申し上げます。

新年度に入りまして初めてのこの委員会ということになりました。出発にふさわしいよい季節になっておりますし、きょうも非常に穏やかな天気でございます。そういった中で、ひとつ穏やかにきょうは委員会を進めていきたいと思っておりますので、皆さん方のご協力をお願いしたいと思います。

人口減対策ということでございまして、先が見えにくいという非常に難しいテーマに向かおうとしておりますけれども、きょうお顔を拝見しますと、当局側、6人の部長さんばっかしがおられる非常に市の全体を網羅したような委員会になっておりますので、ひとつ我々としましても、当局側と協力しながら、まちの発展のために少しでも前進できればと思って、そういう姿勢で取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたしたいと思っております。

それでは、委員会に当たりましては、活発な発言を皆さんにお願い申し上げまして、簡単ですけども、ご挨拶にかえさせていただきます。

それでは、協議に入りますまでに3番の自己紹介をしたいと思っております。

今回は、年度当初の委員会であります。4月1日付の異動で人口減少対策等調査特別委員会の当局職員に異動がありましたので、ここで自己紹介をいただきたいと思っております。

まず委員から、次に政策調整部から名簿に記された順でお願いしたいと思います。

委員長を務めさせていただきます奥村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○副委員長（上田 倫久） 副委員長の上田倫久です。

よろしくお願いいたします。

○委員（足田 仁司） 委員の足田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（伊藤 仁） 済みません、伊藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（嶋崎 宏之） おはようございます。嶋崎と

申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（清水 寛） 清水です。よろしくお願いいたします。

○委員（田中藤一郎） 田中です。よろしくお願いいたします。

○委員（椿野 仁司） 一番最後の椿野ですが、ちょっと長くなりますけども、人口減少の対策ということであれなんですけど、私は子供が4人おりまして、全員東京に行かせました。お金もたくさんかかりましたけれども、全員城崎に帰ってきました。そのうち2人は結婚して3人の孫と、それからもう一人また結婚した新婚のところに孫ができます。それから長男もこの春に結婚することになりました。それから長女はいつの間にか結婚してますということで、私から言わせると、自分が実践をしてきましたけど、帰すのも大変だなあ、帰ってきたのも大変だなあ、そういうことでございます。何かヒントになればということで自己紹介にお話をいたしましたけど、それでいい知恵があるわけではございませんが、それでも本当にそういうふうにやっていかないと人口はふえていかないのかなということがあるので、ここにおられる皆さんも努力していただきたいなど。以上でございます。

○委員長（奥村 忠俊） 全員終わりましたか。

じゃあ、当局のほうでお願いいたします。

○政策調整部長（塚本 繁樹） 失礼します。4月から政策調整部長を拝命しました塚本です。本特別委員会は初めてということでございまして、何とぞどうぞよろしくお願いいたします。

○政策調整課長（井上 靖彦） 失礼します。4月に政策調整課長を拝命いたしました井上と申します。よろしくお願いいたします。

○総務部長（成田 寿道） 失礼します。総務部長を拝命しております成田でございます。この委員会は初めてということになります。勉強させてもらいながらと思っておりますので、お手やわらかによろしくお願いいたします。

○総務部次長（上田 篤） 失礼いたします。新採用の総務部次長兼ワークイノベーション推進室長

の上田です。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○ワークイノベーション推進室参事(岸本 京子) おはようございます。ワークイノベーション推進室参事の岸本です。1年ブランクがございまして、戻ってきてしまいました。一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

○健康福祉部長(久保川伸幸) 健康福祉部長の久保川です。私は肩書が1つなくなりました。ハートリーフ戦略室長という肩書がこの4月でなくなって、健康増進課の中の推進室という位置づけになりました。これからは健康増進課長と一緒に頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

○健康増進課長(宮本 和幸) 健康増進課長の宮本です。よろしくお願いいたします。先ほどもありましたように、今年度からハートリーフ推進室がうちの所管ということになります。よろしくお願いいたします。

○環境経済部長(坂本 成彦) おはようございます。環境経済部の坂本です。新米です。よろしくお願いいたします。

○環境経済課長(柳沢 和男) おはようございます。環境経済課長の柳沢です。引き続きここにおりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長(奥村 忠俊) ありがとうございます。
(「済みません、最後に」と呼ぶ者あり)
済みません、どうぞ。

○事務局主幹(小林 昌弘) 4月の人事異動で議事事務局のほうにお世話になります小林昌弘です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長(奥村 忠俊) 非常にいい雰囲気が始まりましたんで、ひとつ維持していただきますようによろしくお願いいたします。

それでは、4番目の協議事項に入りたいと思います。

一括して説明をしていただきまして、後で質疑という形で進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

順番につきましては、政策調整部、総務部、それから健康福祉部、環境経済部ということでお願いしたいと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。(「ちょっと休憩してください」と呼ぶ者あり)
なら、休憩します。

午前9時37分休憩

午前9時45分再開

○委員長(奥村 忠俊) それでは、休憩を閉じまして委員会を再開いたします。

それでは、まず、委員会所管の事務概要についてということで、順番に説明をお願いいたします。
井上課長。

○政策調整課長(井上 靖彦) 事務概要1ページをごらんください。地方創生の推進でございます。現況と課題でございますが、本市の人口減少の量的緩和策を通じ、豊岡で暮らすことの価値と魅力を高める質的転換による地域活力の維持を図りながら、地方創生を戦略的に進めています。

基本方針でございます。本市の地方創生総合戦略は、毎年度見直しを行っており、本年度も改定をし第5版を策定し、地方創生を戦略的、効果的に推進してまいります。また、本年度は現地方創生総合戦略の計画期間の最終年度となるため、2020年度からの地方創生総合戦略の改定を行います。改定に当たっては、これまでの検証をもとに関係部署と協議を進めるとともに、外部有識者等で組織される地方創生戦略会議の意見を踏まえ、地方創生を着実に推進する体制を整えてまいります。

概要でございますが、地方創生総合戦略第5版については、ことし6月ごろに、また、第2期の地方創生総合戦略の策定については、来年2月ごろをめどに行う予定しております。以上です。

○委員長(奥村 忠俊) お願いします。

○ワークイノベーション推進室長(上田 篤) ワークイノベーション室からは3点の重点事項をご説明します。ジェンダーギャップとワークイノベーションのこの2件は私から、キャリアデザインの方は岸本参事からご説明いたします。

まず、2ページをお開きください。ジェンダーギャップ解消の推進です。現況課題ですが、ご承知の

とおり20代の若者の回復率が男性の半分という、これ2015年の国調データですが、ということで、まちの存続自体が危うい状況にあるというふうに認識しております。20代の女性の豊岡で暮らす価値が総体的に低下しているからではないかと考えてます。その理由としましては、(1)から(3)に上げてますように、男性中心の社会で、社会的、経済的分野において女性が専ら補助的な役割を負ってきたことなど、3つでございます。

基本方針といたしまして、多様性を受け入れ、支え合うリベラルなまちづくりを進めるに当たって、現時点で最大の課題はジェンダーギャップ、性別に基づき定められた社会的属性とか機会等の格差、このジェンダーギャップの解消に向けて現状等を市民の皆さんと共有するとともに、ジェンダーギャップの解消に向けた戦略策定、これを2020年度に予定しております、この策定の準備を行うとしております。

概要といたしましては、今年度の主な事業として2つ上げております。まず1つ目です。多様でリベラルなまちを創るシンポジウムの開催を5月20日の午後に予定いたしております。このシンポジウムは、ジェンダーギャップの解消について市民の皆さんと一緒に考えて、その理解を深めるための機会としたいと。それとジェンダーギャップ解消のキックオフという位置づけのシンポジウムとしたいと考えております。2つ目は、ジェンダーギャップ解消のための戦略策定に向けた市民意識調査等の実施を予定しております。

今後のスケジュールといたしましては、先ほどご説明しましたように、来年度、2020年度にジェンダーギャップ解消のための戦略を策定予定といたしております。

続きまして、3ページをごらんください。ワークイノベーションの推進でございます。

現況と課題でございます。市内で就労に関する大きな課題、男女格差がございます。あわせて事業所の対応もちょっとおくれぎみという、そういう状況でございます。(1)から(3)まで上げてますが、

市内事業所の育休の取得率は47.9%ということで、全国平均に比べて約6割という状況です。2つ目が、51歳から60歳女性の平均給与収入額が251万円ということで、同世代の男性に比べて約半分という状況でございます。3つ目が、働く女性の54.4%が非正規雇用で、男性の非正規雇用が18.5%、これに比べて約3倍という状況でございます。

2つ目として、昨年度、市内で働く女性にヒアリングをしました結果、残業が多くて、このままでは働き続ける自信がないとか、働く意欲はあるけど働きがいがないなど、働きやすさと働きがいに関する不満を抱いておられるという状況、それと、経営者もその課題を認識されてるということがわかりました。

3つ目に、共働き世帯がふえています、男性は仕事中心で、家事、育児の負担が女性に偏っているという、そういう状況もございます。

こういう現況と課題を受けて、基本方針といたしまして、ことし1月に策定しましたワークイノベーションの体系に基づいて次のような展開を考えております。

まず、目指す将来像としては、ありたい姿に向かって、生き生きと働く女性がふえているという将来像の実現に向けて、働きやすい事業所がふえているという定着率の向上など、4つの手段に取り組んでいくという方針でございます。

概要といたしましては、今年度の主な事業として、経営者ですとか従業員、人事担当者、管理職、従業員、女性従業員というそれぞれのターゲット別にワークショップであったり、事例共有会、アンケートの実施などを行っていきます。あわせて、先進事業所の表彰・審査制度の検討も進めていきます。加えて、先ほどご説明しました5月20日のシンポジウムのように、市民の理解の拡大もあわせて進めていきます。

私からは以上でございます。

○委員長(奥村 忠俊) では、引き続きお願いします。

○ワークイノベーション推進室参事(岸本 京子) 4

ページをごらんをいただきたいと思います。私からは、キャリアデザイン推進事業について説明をさせていただきます。

まず、現況と課題ですけれども、既にご存じのように、市職員の年齢構成は40歳以上が全体の6割を占めております。10年後、20年後を考えますと、この世代が多数退職するという状況にあります。したがって、市役所を担うリーダー確保の取り組みを早急に進める必要があると考えています。

豊岡市が持続可能であり続けるためには、長期的視点に立ち、性別、世代にかかわらず職員一人一人が意欲、能力を十分に発揮する必要があります。そのための人材育成が課題となっています。昨年度実施いたしました職員の意識調査等から得られた主な課題を3つ上げています。自立的なキャリア形成を支援する仕組みが不足している、性別によって働きやすさに差がある、3つ目に上司による部下育成と支援スキルの向上が必要な状況であるというような3点です。

基本方針としましては、ワークイノベーションで上げております働きやすく、働きがいがある組織ということを目指しておりますが、1月に策定いたしました豊岡市役所キャリアデザインアクションプランに基づきまして、キャリア形成に重点を置きました研修とコミュニケーションの資質を高めるために必要と考えられる手段としてのキャリアサポートシートの導入を進めます。

まず1つ目に、全ての職員が能力を発揮し、市民の暮らしを支えていくために必要な自律的なキャリア形成意識の醸成を図ること、2つ目に、女性の能力や視点を政策に生かすために必要な支援体制の確立及びスキルを身につけるなど、職員一人一人が行動を変えていくために必要な取り組みを進めたいと考えています。

概要といたしまして、1つ目に、キャリアサポートシート、先ほど申し上げました、の導入、2つ目に、キャリア形成支援のための研修を複数上げております。3つ目に、職員意識調査、変化をモニタリ

ングする必要があるとございますので、KPI達成度の確認や次への改善対応を図ってまいります。今週15日から全職員を対象といたしましたキャリア研修を始めておりまして、きょうは3日目で、5こま目、6こま目を実施いたします。あす、あさっては管理職研修を7時間研修で全員受けていただくことになっておりまして、来月、5月14、15をかけて最終的に全ての職員が受講をするというような状況になっております。

説明は以上です。

○委員長(奥村 忠俊) 続けてお願いします。

○健康増進課長(宮本 和幸) 事務概要5ページをお願いします。人口減少抑制対策、自然増の推進ということです。

現況と課題としましては、地方創生総合戦略B戦略に基づきまして、ハートリーフ推進室については結婚支援策を中心に、出産、子育てに至る総合的な対策を積極的に推し進めるとしてあります。基本方針は、基本的には現在の事業を展開するという事としております。

概要ですが、大きく2つありまして、1の結婚促進ですけれども、(2)出会い機会創出事業「はーとピー」については今年度から市の直営となっております。大きい2番目で多子出産支援の、(2)につつきまして、子育てママの活躍機会促進事業ということで補助金を新設しておりまして、子育て中の女性が開催する親子向けイベントについて支援を行っていくということにしております。以上です。

○委員長(奥村 忠俊) 柳沢課長。

○環境経済課長(柳沢 和男) 建設経済委員会の所管の中になりますけれども、移住定住の推進についてご説明をさせていただきます。

建設経済委員会の所管の資料の4ページになります。移住定住の推進でございます。

現況と課題につつきましては、人口減少が進む中、何とか少しでもこの減少を緩和するために、移住定住の各事業を進めているところでございます。人口が年々減っていくというふうな状況でございますので、課題が多い状況ではありますけれども、特に

仕事、住まい、暮らしなど幅広い情報を発信をして、ワンストップ窓口を置きまして総合的な相談に乗ることで、この窓口を通して移住した方も年々ふえてきてるといふような状況でございます。28年度は27名、29年度は61名、30年度は76名というふうに伸びてきております。

このような状況を踏まえまして、基本方針としては、引き続き今やっております事業を展開していくというふうなことで、Iターン、Uターンのプロモーションや各種情報発信による市の認知の拡大あるいは興味の拡大、そしてそれが豊岡への訪問につながっていくというふうな方向で持っていきたいというふうに思っております。さらに、総合的な相談と移住支援による定住という流れで一人でも多く移住につながるよう進めていきたいというふうに思っておりますし、地域おこし協力隊についても、地域の活性化のための活動を支援して、地域の元気を高めていって定住につながっていくというふうなことで進めていきたいというふうに思っております。

概要でございます。移住定住の情報発信、移住定住の相談支援、ジョブ・サポ豊岡の運営、地域おこし協力隊の推進、労働力確保・雇用というふうな形で5点上げておりますけれども、従前のものを継続してやっていくというのが基本でございますけれども、その中で、大きな2番に書いております中の一番下の行でございますけれども、まちのサードプレイスというのを今年度創出していきたいというふうに思っております。こちらにつきましては、行政だけが移住定住のことを進めていくということではなくて、市民との協働による進めていくということが大切であるというふうに考えておまして、民間サイドの移住相談窓口を設けるような形で進めていきたいというふうに思っております。

昨年度までは地方創生の総合戦略の中で、国の交付金をいただきながら事業をやってまいりましたが、今年度からはその分がなくなるというふうなこともございまして、少し事業を絞ってきております。従前25歳同窓会あるいは市独自の企業合

同説明会等をさせていただいておりましたけれども、そちらにつきましては、ほかの業務等の中で効果が図られるのではないかとということで実施を取りやめたというふうなことがございます。記載の事業展開で今後も推進を図ってまいりたいと思っております。以上でございます。

○委員長（奥村 忠俊） ありがとうございます。とりあえず説明は終わりですね。

説明が終わりました。

質疑をしたいと思います。質問のある方は挙手をお願いしたいと思います。どうでしょうか。活発な質疑をしていただきたい。（「活発じゃないけど、いいですか」と呼ぶ者あり）よろしいですよ。

椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 前回は申し上げたんですけど、本当にこの委員会というか、人口減少対策というのは大変難しい問題であるんですけど、これは豊岡市としてというか、地方のどのまちにも言えることであって、これをでも何とかしなければ本当、今後将来にわたって非常にまちの存続をも危ぶまれていくという状況になっていくのではないのかなというものは、もう皆さん共有してると思います。

ただ、現実的に、それが10年先なのか、20年先なのか、30年先なのかというのははっきり言うところとわからない。でも未来にわたってそうなるだろうということやを予期しながら、何も対策をしないのはこれは一番いけないことなので、今、市がこんだけやっていたことが、前にも言ったんですが、まだまだ市民に本当にどこまで共有というか、情報は伝えているけれども、市民が本当にどこまでそれに対して大変だとか、将来大変なことになるなということにまだそれを感じてもらってないのではないのかなと。現実主義というか、今がよければいいということなのか、逆に言えば、そんなことは行政がやることだというふうなこと、議会もそれに対してちゃんとやれよと言われて、それで終わってしまってるのではないのかとすると、じゃあ、これは行政の責任なのかどうなのかということなんだと思うんですね。

ずっと今、説明を聞いて、市の今の取り組みの中でいろんな予算も見ていく中で我々が今課題とするところのことについては、説明というか、うまく質問ができないんだけど、例えば地域コミュニティだとか、それから放課後児童クラブだとかワークイノベーションの今の事業だとかハートリーフ推進だとか移住定住促進だとかというところが、でもやっぱりそういう人口減少とか市が今抱えているようにする問題、それから解決のために一つ一つが何かつながっていくのではないのかなというふうには私は思うんです。間違っと思ったらいけませんけども。

とすると、それを、木を見て森を見ずという言葉もあるけれども、だとしたならば、トータルでどこが誰がこれを仕切っていくのかなというところ辺がちょっと大事な要素ではないのかな。それぞれはそれぞれいい実績も上げ、やってるんですが、でもそれが本当に大きな課題である人口減少を歯どめをかける、もしくは対策をするということにつながっていくことに何かうまく組み合わせというか、トータルで誰が、どの組織がそれをやってくれてるのかなところが、ちょっと私は今ずっと聞いて少しい疑問に思いました。活発なことにはならないんですが、ただ、ちょっと抽象的な質問というか、意見になるんですが、答えられる範囲で答えてもらいたいと思うんです。

それから、あとそれにつけ加えて言うならば、豊岡市が全体で今の豊岡市に対してこういう課題もしくは事業をこうやってやっていくことで対策を練っていかうとするんだけど、ただ、こんだけ広い旧1市5町、合併してから、やっぱりそれぞれのまち、旧市町単位もしくはそれでももっと細かい単位の中で地域に合った取り組み、地域に合ったやり方があるのではないのかなとすると、もう少し細かいところに思いを寄せるとするか、そういう具体的な取り組みをしていかないと、ばあっと網かけでやっても、それはその地域に合ってない取り組みになっていかないのかなというふうなところもあるので、ちょっとその辺を私は今皆さんのお話を聞いて

とって感じました。どなたが答えていただくか知りませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（奥村 忠俊） どなたか。

井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 全体というところで行きますと、地方創生総合戦略の所管を政策調整課が行っておりまして、上位目的であります豊岡に暮らす価値を認め、豊岡で暮らすことに自信と誇りを持って住む人がふえているというところに目がけていろいろな施策を取りまとめるというところはしております。ですが、なかなか先ほどインバウンドですとか定住促進とかそれぞれの課が所管しておりますので、そのPDC Aについてはそれぞれが今一生懸命されてますけど、なかなかちょっと全体としてどうなのかというところは十分まだできてないかもしれないと思っております。そんな中で、今度は第2期をつくっていかうとしますので、そのあたりは、今度は目的等をもう一度また見直しながら進めていけたらなというふうに考えております。

もう1点は、各地域ごとの取り組みでございますが、この戦略にはなかなか市全体の取り組み、委員おっしゃったように、それが載っております。その中で、振興局単位でも、ここに直接は反映というか、なってないかもしれませんが、振興局プロジェクトということで過去3年やってきまして、昨年度で一応そのプロジェクトは終わったんですけども、引き続き今年度からまた3年、4年というスパンで各振興局でどういったことを重点的にやるかということ、これは振興局単位でまたまとまって考えるというふうに進んでおりますので、そういったところで、この地方創生総合戦略や基本構想とあわせながら振興局単位でも進めていくものと考えております。

○委員長（奥村 忠俊） 椿野委員、どうぞ。

○委員（椿野 仁司） 今、私が言ったことは即答えが出るとは思ってませんが、でもやっぱりそれぞれの所管でやっておられることについての取り組みをいわゆるそこが取りまとめられるんだったら、ぜひそれをやっていただきたいと思います。

それで、調整をしながら、なおかつ地域に合った取り組みのあり方、こないだの委員会だったんか、今の港区の芝の家の取り組み、ご近所づき合いという都会でありながら昭和の暮らしをやっているということで、今、慶應大学か何かと一緒にやっておられるんだけど、要するにご近所づき合いをやっていきましょう、いろんなここに、人口減少ではないんだけど、やっぱりそういうことで、地域がみんなで暮らしていくことの豊かさとか忘れかけたご近所のつき合いをよくしていくことによって人がどんどんふえてくるというような形をとって今やっておられる、実践されてる。都会でありながらそれをやっているとことがあったり、それからこないだフランスのこともお話ししたと思うんですが、僕は、もう大きな改革っていうか、人口減少に対して改革っていうか、大きな、今まではこうだったけど、常識をやっぱり破るようなやり方をしていかないと、本当この対策はなかなかできないのではないのかなと。一般的な優等生の解答ではだめなのかなと思うので、もうこれは大きな改革をしていかないと僕は無理だと思います、本当に。だから、そういういろんな事例をしながら、戦略室でいろいろとそういう情報を得ながら、それでまたそこから各所管に流していくというようなことも、実際これから考えてやっていただきたいと思います。もう別に答えていただかなくても結構ですけど、何かあればどうぞ。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいか。

○委員（椿野 仁司） いいですよ。じゃあ、ほかにどうぞ。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいか。

田中委員。

○委員（田中藤一郎） 椿野先輩の続きのような話の質問になってしまうんですけども、そういう意味合いでは、豊岡自体も日本同様に、ある意味、豊岡の中心市街地を中心に人口が集中しているような部分が否めないのかなと。日本でいいますと東京を中心、一極に人口が集中しているような部分がありますので、豊岡市内においても、地方にどうして人をば

らまいたりだとか一点集中を軽減するような施策を一生懸命日本政府もやってるわけで、豊岡においても同じような状況が見られるというふうな中で、豊岡市内において、先ほど椿野さんが言われましたように、ダイナミックなやり方を、例えば但東町がもう余りにもひどい状況下の中で、そこにどういふふうなことをしていけば人口がふやしていけるのかということ、ある意味、実験的にでも集中的にもやることによってそこにヒントが生まれて、そのやり方を全国に発信することによって豊岡の人口減少が緩んできたりふえていくというふうな考え方もできるというふうに思うんですけども、そういったあたりの考え方、市長も言われるように、豊岡全体でよく言われるんですけど、やはり1市5町の中でも悲鳴を上げてる地域がありますので、そのあたりの考え方をやっぱり一度見直すっていうのは必要では。僕はいつも言うてんですけども、そのあたり、同じような話になるかもしれませんが、どのように考えられてるのか、ちょっと教えていただきたいなというふうに思います。

○委員長（奥村 忠俊） 井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 委員おっしゃったようなことで、但東ですとか竹野とかの人口が、ほかの地域よりやはり減り幅が大きいというのは人口ビジョンのほうでも出ております。ただ、それをどのようにとどめさせるとか、あるいは市の市街地の人を但東や竹野にやるかというのは、なかなか個人の自由というのがあって難しいなというふうに思っております。なので、市全体としての人口維持ということは今やっていますけれども、なかなか但東とかっていう特定のエリアに人をとどまらせるというふうなのは、ちょっとなかなかできないなというふうに思っております。その中で、やはり各振興局が中心となって自分のエリアを魅力あるまちにしようというところの動きは今後も続けていくというふうに考えております。

○委員長（奥村 忠俊） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） それで、10年後、但東町なんかは、前にデータ見てる限りでは地域としての活

動ができなくなるというふうな状況がわかる中で、振興局自体の、先日も見させていただきましたが、それで今言われてるようなことが耐えられるのかどうかというふうな部分を、なんか他人事のような、先ほど言いましたように、全体的な部分の話しかできないからこそ人口減少がある意味進んでるような気がするんですけれども、そういう考え方を先ほど椿野さんが言われたとおり、もっとダイナミックな考え方や施策をどういうふうな形をしていくことによって、そこに新たな人口減少の歯どめができるようなことが僕としては考えられるのではないかなというふうに思うんですけれども、それでは今と一緒になくなってしまいますけれども、それでいいんでしょうか。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいか。（「課長ばかりではなくて部長も」と呼ぶ者あり）

それでは、政策調整部長。

○政策調整部長（塚本 繁樹） 済みません。確かに但東町のほう、そういう今の人口減少が一番激しいというか、厳しいという状況ですけども、今いろいろと、慶應大学ですか、そういうところとか共同研究したりして、高橋地区でしたかね、そういうこともやってまして、子供たちのほうに教育をして、帰ってくるようにということも今、但東町のほうではやっぱりもしてますので、ほったらかしにしてるということは決してないと思いますけども、確かに全国的な話で、人口減少というのはどうしても避けられないような状況でありますけども、ただ、なかなか難しいのは、特定地域だけ何かということが今の現状ではできてないというのは確におっしゃるとおりだと思いますので、その辺も今後ちょっと研究や調査をしていかないといけないとは考えております。

○委員長（奥村 忠俊） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） 本当にぜひとも考えていただきたいなというふうに思いますし、ちょっと僕的にいいますと、豊岡だけで見てしまいますと但東町というところは端っこになるんですけれども、もう少し上のほうから見ますと、隣には福知山もあります

し、中山のほうでいいますと、宮津や大宮というふうなところのその距離でいいますと非常に中心地で、ある意味、福知山の人に住んでもらうとか、そうすることによって、何か豊岡市内だけで物事を考えてしまいますとそういうふうな端っこの部分であるんですけれども、もう少し上から見て隣の地域を鑑みて、どういう施策をすることによって人口減少が歯どめになって逆に人口をふやしていくかっていう違う目線のあり方をやっぱり考えていかないと、言われたとおり個人の自由なんですけど、でも施策によってその動きを変えられるっていうのが、ある意味、行政がやらなければならない一つの大きな課題であるような気がしますし、やらなければならないというふうに感じますので、ぜひともお願いしたいな。ちょっと目線を少し変えてみるっていうのは、そこからの戦略を練るというのはやっていただきたいなというふうに。残念ながら、これまでの積み重ねたやつしか今後もしないようなことだったんで、それでは皆さん思われてるように人口減少は歯どめがかからないのかなというふうに思いますけどもね。意見にしときます。

○委員長（奥村 忠俊） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 今の関連で、だからそういう意味で私も言ったのは、答えを言ってもらわなくてよかったんですけども、でも田中君が今言ってる話の中で、もっとダイナミックにこれはやっぱり改革をしていかないと、常識的なやり方をしとったってだめだということですよ、もう日本の中にいっぱいそういう事例があるわけだから、はっきり言って。奈義町だってあるんだし、また、明石の市長は再選されましたけど、あそこだって結局人口問題に取り組んでおられるんですよ、やっぱり社会保障も含めていろんな子供たちの手当もよくしてるから、あれだけ市長さん評価が高いわけですよ。ということは、やっぱりもうダイナミックなことをやっていかないと、そんな常識的なことをやってもだめだということだ。それを今、田中君も言って、私も同じように言ってるわけだから、但東町という名指しで言いましたけども、もうとにかく一回やってみると、

そこで。

福知山は、私も思ってるんだけど、この豊岡市の中だけで例えば解決型にするんじゃないくて、ここで暮らしてここで働いて、ここに働きがいのある働きやすいとかなんとかっていうんじゃないくて、ここで完結するんじゃないくて、例えば但東町であれば今言う福知山に近いわけだから、福知山で働いてもらってもいいわけですよ、でも住んでるのは但東町で住んでよ。福知山まで移住しないで、逆に言えば福知山の人が但東町に住んでもらって福知山で働いてもらったっていいわけですよ。もうそういう何か豊岡市民がここに生まれてここで暮らしてここで働かなきゃいけないんじゃないくて、そういう周りに飛び火させて、そういう何かやり方をしていけないといけないんじゃないかなということも今、田中君は言ってると思うので、但東町ばかりじゃなくて、竹野だって日高だって何か考えられるんじゃないかなと私は思いますよ、正直なところ。そういう何かことをやっていくのも一つの方法だということをお願いしたかったんだよな。そうだな。

○委員（田中藤一郎） そうですね。福知山から住んでもらうのには、どういうふうなことをせな人が住んでくれないかという調査をしながら……。

○委員（椿野 仁司） ごめんね、委員長の采配を向こうでやりまして済みません。

そういうことなんです。それでどうですか、部長。私が言ったらいかん。どうぞ。

○委員長（奥村 忠俊） いや、どちらでも。部長でも。

なら、課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） ご意見はわかりました。ダイナミックな展開が必要だということも聞いておきたいと思います。

一方で、私も但東町高橋地区に住んでおまして、今コミュニティがスタートしまして、高橋地区の中でもコミュニティのところで、やはり隣の福知山とどのように連携するとか人を呼んでこれないだろうかとということで、どうやったら人が少なくならない、帰ってくるかということコミュニティの単位

でも考えてやっています。そういうことですので、行政もすべきことはすると思いますけれども、やはり地域の方と、そういった提言があったら、また一緒に考えていくということも一つ必要なというふうに思っております。

○委員長（奥村 忠俊） 委員長がちょっと言わなくてもいいんですけども、市の今方針を見ますと、例えば、この3ページのきょうのに書いてありますように、働きやすい事業所がふえているとかというふうに言い切られてるんです。これは決意を示されておるとは思っておるんですけども、じゃあ、1年後どうだったのという、なかなかということがやっぱり多いと思うんですよ。難しいし、テーマも。

どうでしょうか、この委員会としましては、旧1市5町の中で特に人口減が非常に激しい但東と竹野について特別なやっぱり取り組みが必要ではないかということをお願いしながらお話を聞かせていただいたりしておるんですけど、なかなか取り組みの事業をされても、それが2年も3年も続かないという実態があるように思うんです。そういう点では、振興局任せでいいのかという、そういう意見もきょうまで出てきておりますので、本部におられる方々は非常に忙しい仕事で範囲も広いんですけども、具体的なことでの一つ一つの積み重ねが大事なように思いますので、今、田中さんや、それから椿野さんからも意見が出ましたように、一つでも目に見えるものがやっぱりできないと励みにならないように思いますので、ぜひその点はしっかり留意していただいてと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。もしご意見があったら。

政策調整部長。

○政策調整部長（塚本 繁樹） 委員長がおっしゃるとおり、いろいろと課題があるんですけども、こちらのほうも調整や研究を重ねていきたいと考えておりますので、議員の皆さんからのご提言もまたよろしくお願ひしたいと思っております。

○委員長（奥村 忠俊） ほかにどうでしょうか。

田中委員はもうよろしいですか。

○委員（田中藤一郎） 僕は。

○委員長（奥村 忠俊） 清水委員。

○委員（清水 寛） ちょっと1点、意見というか、お願いだけなんですけども、地方創生の総合戦略の見直しというか、第2期ということが策定ということで書かれてるんですけども、その中で、先ほど地方創生の補助金が切れて、例えば25歳同窓会とか市の単独の合同説明会とかそういうものが中止になりましたよというようなことで、お金がなくなったからやめるということではなくて、特に今回新しく総合戦略の見直しをされる中で、きちんとそのいわゆる事業総括といいますか、それぞれの事業の価値であったり、検証したものを生かして次に残してもらう。当然に新しいものをどんどんどんどんするというのではなくて、いわゆるPDCAという言葉で言えばあるんですけど、そのAの部分を実は検証という形というんですけど、言葉として、アクションじゃなくてアジャストしていく、要は目的に向かって調整をしていくという取り組み方をぜひしていただきたいなと思いますし、人口が減っていくということが人をふやすというようなことになるんですけど、なかなかその先ほど椿野委員が言われたように誰がというところまで明確になっていかない。そのところが、やはり持続可能な地域をつくっていくという意味では、いかに地域そのものの言ったら家計が回転するのか、そういう稼ぐ仕組みという取り組みがやはりもっともっと中になければいけないことだろうと思います。

人口が減っていくといいながら、そしたら人口が少ないところが必ずしも疲弊して衰退の道を進んでいくかと思ったら、そういうことではなくて、先日山田桂一郎先生が来られててお話を聞いてたんですけども、たった5,700人の村なんですけども、もう土地もやせてて何も耕すこともできない、そこが観光で食って行って、実際には年間40億円を納めてるといって、5,700人の村がですね。そういう意味では、人が少ないから衰退していくという発想ではなくて、小さくてもきちんとやっていく地域はあるわけですし、特にここは小さな世界都市を標榜するのであれば、やはり横並びの国の中

の日本のどこのということではなくて、もっと発想を変えて、まさにイノベーションした取り組み方というのを考えていかなければならないと思いますし、そのためには行政の枠組みを超えて、もっとさまざまなところの意見であったり、勉強をしていく。そういうことをしていかないと、どうしても今の人口減少というところの市がつくっているものは、豊岡市の存続のためというよりは豊岡市役所の存続のためというふうにしかならないような形になってないかなと思いますので、ちょっとその点をきちんと事業総括をした上で、新たな部分であったり、今のものをよりとがらせていくようなことであつたりということも取り組んでいただきたいなと思います。これは特にコメントは求めません。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいですか。

○委員（清水 寛） はい。

○委員長（奥村 忠俊） それ以外に質疑はありませんか。

足田委員。

○委員（足田 仁司） せっかくですから、資料のことをちょっと尋ねたいと思います。

その前に、先ほどから出てるのでやっぱり気になるのは、例えば振興局レベルでってあっても、現実には予算、人、それから裁量、どんどん、低下と言ったら変ですけど、なっている。それと、合併後の職員が、これから年数がたっていくと、振興局単位のことをよくわかった職員がどんどん減っていくわけで、そうなっていくと勢い、さっきから出ます地域ごとの振興策っていうのが本当に可能なのかというのがちょっと危惧されるところだと思っております。

資料の中のちょっと何点かお尋ねしたいんですけど、3ページのワークイノベーションの推進の現況と課題の1の（1）市内事業所の育児休業取得率が47.9%で全国平均よりは低いというふうになってるんですけど、47.9%もあるんかというのが実感です。この事業所の対象の範囲と、本当にこの47.9%もとってる、それぞれの事業所が育児休業制度を本当に持っているのどうか。私の身の回り

のまちの事業所だと、その制度すらないというのがほとんどのような印象を受ける中で、このパーセントはすごいなと逆にそう思いましたので、ちょっとその辺、補足説明をお願いしたいです。

それから、4ページのキャリアデザイン推進事業で、水を差すつもりはないですが、よく最近の若い人のアンケートで、会社に勤めてあなたは将来何を目指しますかっていったら、昔は社長というのが結構、つまり頑張って昇進して給料もふえて行く行くは社長を目指すんだみたいな、そういう志の反応が割とあったように思うんですけど、最近はそのがほとんどなくなって、昇進はどの辺までがというと、あんまり上を望まない、そこそこのポジションでそこそこの稼ぎがあればそれでいいと、そういう時代になってるのかなと思うんですけど。

つまり何が言いたいかというと、例えば市役所の女性職員全員にリーダーになるためにあんたらも頑張れって、それが苦痛になる職員も出てくるん違うかなってこれ見てて思ったんです。だから、確かに女性の管理職の割合とか低いんですけど、全員が全員本当にそういうところを目指しているのか。逆に、職員自身がどこら辺までを目指してるんかというのが、その人の働きがいとか、そこを大事にできるん違うかな。何でもかんでもみんな管理職になってもらわなくて訓練すると、それが本当にいいのかどうかというのが若干気になりますので、ちょっとコメントをいただきたいなと思います。

それから、移住定住の推進のところ、さっき課長が言われた下の概要の2の一番最後の行、サードプレイスの創出、これは民間によるとありますが、その民間というのはどういった組織、団体を指してるのか、教えてください。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 上田推進室長。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） 今、足田委員からご質問ございました女性の育児休業取得率でございますが、豊岡市のデータ47.9%というのが、市が2015年に実施しました結婚・妊娠・出産に関する市民意識調査で得られた数字でございます。全国のほうの80.8%というのは、

厚生労働省の雇用均等基本調査、これは2016年度版でのデータでございます、同じ調査の中で例えば豊岡市と全国を比較してるというより、同じような調査の中で得られるデータで比較しております。

47.9%というのは、ちょっとこんなにあるかなというようなご指摘でございます、今でも男女共同参画のいろんな市民意識調査とか事業所の調査の中でも、育児休業はとれるんだけど、なかなか例えば職場とかの環境でとりにくい状況にあるんですとか、実際制度としては当然認められてるわけですけど、それが例えば就労規則とかにちゃんと盛り込まれてないという、そういうふうな状況がどうしても小規模の事業所の場合は出てるということでございます。

○委員長（奥村 忠俊） お願いします。

○ワークイノベーション推進室参事（岸本 京子） 委員ご指摘の件なんですけれども、おっしゃるように、実際、昨年度実施をいたしました職員アンケートからも、より高い役職を担いたくないと感じているのは、男性は19.6%で女性が33.3%という状況でした。13.7ポイント差があるという状況です。どちらかという担いたくないを含めると、さらにその差が拡大してるという実態です。今回世代ごとに検証を行っておりまして、40代、それから20代、30代を終えたところなんですけれども、先ほど冒頭申し上げましたキャリアサポートシートをサンプルとしてワークをして実際に書いてみるという検証をしております。

その中で、講師のほうからの結果を見た分析なんですけれども、実は一人一人が結構それぞれのいろんな思い、こうしたい、ああしたいということを実は持っているという状況が見てとれました。ただ、思っている状況が、上昇志向、いわゆる管理職を目指したいのかというと、全てがそうではありませんし、キャリアは10人いれば10色、100人100通りということになりますので、決して役所側が強制的にここまであなたになりなさいというふうなことではなくて、自分のキャリアデザインを描く

っていうか、できていたらというふうに考えてます。

○委員長（奥村 忠俊） 足田委員、どうぞ。

○委員（足田 仁司） よろしいです。

○委員長（奥村 忠俊） ほかはどうでしょうか。よろしいですか。

それでは、ほかにないようですので、以上で協議事項については終わります。

この際でございますので、当局側から、また別のことで何か発言等々ありましたら。別にございませんか。

じゃあ、上田さん。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） 済みません、レターケースに配付させていただいたと思います。ことし1月に策定しました豊岡市ワークイノベーション戦略という市内事業所向けのものと、豊岡市役所のキャリアデザインアクションプランという、これも1月に策定しましたワークイノベーションの市役所版というんですか、市職員版のできるだけ理解していただくためのそういうパンフレットをつくりましたんで、また後ほどご清覧いただけたらと思います。

それと、先ほどからずっとこれはダイナミックにやっぱり取り組んでいく必要がある、そうしないと、既存概念とかも、ぶっ壊すと言ったら怒られちゃいますけど、それを変えるぐらいの意気込みを持ってやっぱり取り組んでいく必要があるというふうに認識しておりますんで、その中で、今度5月20日に多様でリベラルなまちを創るシンポジウムということで、ジェンダーギャップ解消のキックオフとなるシンポジウムを市民プラザほっとステージのほうで開催します。

基調講演の講師のほうは、大崎麻子さんといまして、結構、関口宏さんの「サンデーモーニング」に日曜日とかでコメンテーターでも出ておられた方なんですけど、ジェンダーギャップの専門家で、こないだの東大の入学式で名誉教授の上野千鶴子さんがこのジェンダーギャップについてコメントされて、結構、特に40代、50代の女性とかを中

心に高い共感を得てるというのがありますけど、その上野千鶴子さんに次ぐジェンダーギャップの専門家でもございますんで、議員の皆様も、お忙しいでしょうけど、ぜひスケジュールが合いましたらご参加いただけたらと思います。どうぞよろしくお願ひします。

○委員長（奥村 忠俊） それでは、ほかにないようでしたら、当局の方はこれで退席していただいて結構です。ありがとうございます。またよろしくお願ひします。

少し休憩をいたします。再開は10時55分。

午前10時43分休憩

午前10時55分再開

○委員長（奥村 忠俊） それでは、休憩を閉じまして委員会を再開いたします。

次は、委員会の重点調査事項についてを議題といたします。

参考までに、現行の重点調査事項を別紙1に記載しておりますが、新年度を迎え、改めて協議をお願いしたいと思います。

別紙1に、3月の委員会で確認した内容を記載しておりますので、ちょっとございましたか。

○委員（椿野 仁司） いいんじゃないですか、これでいいと思いますけど。4番に全て網羅されると。

○委員長（奥村 忠俊） そうです。

どうですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（奥村 忠俊） じゃあ、それで引き続きということで、よろしくお願ひします。

それでは、前回に引き続きこの内容でいきたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

3、その他ということで、管外視察について、事務局のほうから説明を願ひます。

○事務局主幹（小林 昌弘） 次第のほうの（3）その他ということで、管外視察についてを上げております。日程につきましては、7月11日木曜日、12日金曜日ということで、前回決定をしていただいております。

視察先のほうがまだ決まっておらず、一応今回候補ということで、鳥取県の智頭町、八頭町、それから倉吉市を1つの候補、それから2つ目の候補としては、鳥根県の益田市というところを上げております。

位置関係につきましては、次第の4ページのほうにおおよその位置関係を上げておりますので、ごらんください。

智頭町、八頭町につきましては、人口減を食い止めるというよりも、地域づくりに重点を置かれて、住んでおられる方が自分たちの住みやすいように暮らしておられるというところの町でございます。智頭町は人口が6,689人、それから八頭町が1万6,253人ということで、豊岡市よりもかなり人口的には少ない町となっております。

それから、倉吉市につきましては、鳥取市の西側、大体50キロ程度離れておるところにありまして、人口減の取り組み、特に目玉となるものというものはないんですけども、移住定住の支援ということで、いろんな補助金ですとかそういう施策のほうをされておられる市です。八頭町、智頭町、それから倉吉市については、1泊2日の行程ですので、これで3カ所回れるとは思いますが。

それから、鳥根県の益田市につきましては、清水委員のほうからの紹介ということで、益田市が何か取り組みをされているということではなくて、益田市にあります一般社団法人の持続可能な地域社会総合研究所というところが全国的な人口動態ですとか田園回帰の可能性についての研究をされております。その研究所のほうに話を聞きにいったらどうかということで紹介をしていただきました。4ページのほうの位置図のほうを見ていただければわかるんですけども、豊岡からかなり、まだ出雲を越えてさらに九州側ということで、ちょっと位置的には難しいかなというふうにも考えます。また委員さんのほうから意見をお聞かせいただければと思います。よろしく申し上げます。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） ありがとうございます。

今ここにも書いてありますように、視察先の候補

として、鳥取県智頭町、八頭町、そして倉吉という1つのコースがあるように思います。もう一つの益田市は、鳥根県ですけども、これが山口県に近いような一番端っこのほうにあるんで、相当な距離があるように思うんです。（「5時間47分」と呼ぶ者あり）そういう環境にあるんですけども、もう日程的には7月の11、12ということに決めてありますので、相手がありますので、決めていただいて、向こうとの調整が必要ではないかというふうに思っております。

今ここに書いてある点で、それぞれ委員の皆さん方のご意見や思いがありましたら、出していただいたら結構です。よろしく申し上げます。

椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 委員長にお断りして……。

○委員長（奥村 忠俊） ありがとうございます。

○委員（椿野 仁司） こないだ委員会が終わった後、すぐに石破茂さんの東京事務所に電話して、それで、地元ですから、彼は若桜だったか、もともと……。

○委員長（奥村 忠俊） 若桜町。

○委員（椿野 仁司） この右側にある482号線の「わかざくら」と書いて若桜町で、今は八頭町だと思っただけど、石破先生のほう、先生と直接は話してないですけど、秘書のほうに、とにかく1泊2日で豊岡から近いところということで、鳥取も人口減少が非常に厳しいとこだから、どこかないですかねということでお尋ねしました。今、事務局のほうからは、人口減少の取り組みというよりも、地域おこしというか、地域づくりを重点にして町をどんどん活性化することで人を呼び込みたいというような思いもあるんでしょうけども、その辺をもう少し検討していただいて、倉吉という、これは3つ欲張りなことになってますけれども、行けないことはないということであれば、それはまたあれだと思いますが、その後、石破事務所からまだ連絡がないようですから、もしも本当に、正副委員長にお任せしますけれども、するということになれば、事務局を通じて石破先生の事務所のほうに、またいろいろと段取りをお願いできればなというふうに思ってる。一応

声かけはしてありますから、秘書のほうに。

○委員長（奥村 忠俊） ありがとうございます。

○委員（椿野 仁司） 秘書のほうには一応そういうことを言っておりますので、僕は、最終的には委員長にお任せ。

それから、益田は、清水君のほうでこうやって段取りができるんだろうけども、ちょっと距離があり過ぎるので、1泊2日ではちょっとしんどいな、これは。ちょっとその点も含めて、またせっかく段取りというか、そういうアクションを起こしてもらいましたんで、僕はもう正副委員長にお任せしたいと思います。

○委員長（奥村 忠俊） ありがとうございます。

今お聞きのように、椿野さんのほうで、3月の委員会のときにこの視察のことが出ましたんで、その点で、近くということも一つの条件として、石破さんのほうにお世話になるということがありまして、それが出ております。

それから、もう一つの益田市のほうは、ちょっと資料なんかも委員長ということでいただきましたんですけども、持続可能な地域社会総合研究所という一般社団法人があるんですけども、そこがいろんな調査、分析をして、これは全国的な情報提供をしておられると思うんですけども、地域づくりにあわせた今の人口減少対策に対してどう取り組むかという研究をしておられるということがあったものですから、そういった点での一つの案も教えていただいております。遠いものですから、今言いましたように簡単には行きにくいなと思っておりまして、その点がちょっと心配なんですけどね。

ちょっとその点を、ほんなら清水さんからひとつお願いします。

○委員（清水 寛） 別に益田に行きたいとかそういうことではなくて、通常、行政視察の場合はそれぞれの市町村のほうに行くという形なんですけども、こうやって要は調査研究してるところに足を運んでいろいろと聞くというようなこともいいのかな。実は総務のほうも、北海道大学で夕張の研究事例を聞くというような話もありますし、そういう意

味では、自分たちで見たこと感じたことというよりも、その方たちが分析した結果を聞くということで、実はこの益田の部分と、もう一つは、島根大学で作野先生が要は地域コミュニティで取り組みをされてるんですけども、意外と議員そのものが作野先生の話聞いたことが実はないのかなと思うんで、そういう意味では、この機会に作野先生のほうに表敬訪問をしていろいろと聞くということでもいいのかなと思って、実はその2つを提案としては出させてもらったんです。

○委員長（奥村 忠俊） 勉強会というのがあって、議長経験者もおられるんですけども、むしろ委員会じゃなしに全体としてこういう先生を招聘して講演していただくというようなことも一つの案でしょうけどね。

○委員（田中藤一郎） 何回か実際に聞いたことあるんちゃうかいな。何回もある。

○委員長（奥村 忠俊） 清水さん、今おっしゃった先生いうのは。

○委員（清水 寛） 作野先生は地域コミュニティのほうの。

○委員長（奥村 忠俊） その人はこれまでありますけども、今言われたこの例の。

○委員（清水 寛） これは、要は、いろいろと人口減少の取り組みでずっと調べてると、ここの情報ソースのところによく出くわすんで、だったら直接ここに行って、今の最先端というか、どういう取り組みをされてるかということを直接聞いたほうが、実は非常に答えに近いところを今持っておられるのかなと思ったんで、ここでいうのでちょっと提案に出させてもらったということです。

○委員長（奥村 忠俊） それで、できるかどうかわかりませんが、議員全員が同じことで悩んでるわけですから、したがって、そういう全国的な状況だとか分析されたことで一つの案が出たり、あるいはアドバイスをいただけたらというようなことがあるとするなら、この委員会だけでそこに勉強しに行くというだけじゃなしに、議会のほうで議員全体を対象にした勉強会というようなこともある意味

でいいんじゃないかなと、僕はそう思ったんですけどね。そういうことはどうでしょう。それは予算が組んであるわけでも何でもないわけだが、こんなことはないですか。

○委員(椿野 仁司) ないですね。ないですから、もしもあれだったら委員長の方で、こういうことがあるけど、どないやろうということを議長に一応ご相談いただいたらいいと思いますよ。

○委員長(奥村 忠俊) なるほどね。

○委員(椿野 仁司) できるできないは別として、議長さんに申し出してください。

○委員長(奥村 忠俊) わかりました。

そしたら、それは、また一緒に議長にお願いしましょう、こういうような勉強会したらどうでしょうか。

○委員(椿野 仁司) 清水君も同席してその話をし

て。

○委員長(奥村 忠俊) 誰も同じことを考えておられるわけで、この人口減少をどうするかということですから、そういう形でちょっと当たるだけ当たってみてよろしいか、それで。検討してみましょうかね。

○委員(椿野 仁司) 検討してもらってください。

○委員長(奥村 忠俊) ほな、そのようにさせていただきます。

それから、具体的に視察をするという点では、今の智頭町、八頭町、それから倉吉という3カ所を目指すということで一応よろしいでしょうか。

○委員(田中藤一郎) そこは1泊2日ということで、この3つを回ると。

○委員長(奥村 忠俊) ええ。この八頭まではそんなに時間がかかりませんので、鳥取の手前ですので、1日で2カ所、午前中と午後で回れるんじゃないかなと思うんですけど、どうでしょうな。

○委員(椿野 仁司) 時間的にどうなのかということこら辺も含めて、例えば八頭と倉吉だけでもいいかもわかんないし、鳥取泊まりだったら。その辺はお任せします。無理のないように。

○委員長(奥村 忠俊) 椿野さん、紹介していただ

いた方、石破さんとこの関係のは、この八頭町のほう。

○委員(椿野 仁司) 石破さんのほうにこないだ提案あったのは八頭と智頭だけです。倉吉は入ってないよ、たしか。倉吉は入ってない。だから、それはつけ加えられたらいいです、彼の地盤なんだから。

○委員長(奥村 忠俊) 智頭と八頭と両方回る。

○委員(椿野 仁司) いや、だから委員会で、こことここと、前から言ってるこの2つと、あと倉吉もできたら行きたいということで声をかけてもらえますかって言ったら、歓迎の仕方が違うということ。そういうことであります。

○委員長(奥村 忠俊) わかりました。

そしたら、先はちょっとわかりませんが、断言できないけども、そういう方向で検討してもらってよろしいか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長(奥村 忠俊) ありがとうございます。じゃあ、そのように相手さんと調整をさせていただいて、実行したいと思います。

それでは、今の管外視察につきましては、日程どおりに7月の11、12ということで、取り決めとさせていただきたいと思いますので、先方との関係もありますけども、できる中でやっていきたいと思

いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。それから、どうでしょうか、管内でどうこうということについては、皆さん方のほうで何か視察等の希望がありましたらお出しいただいたら、これは委員会としてしたらいいかなと思っておりますので、何かいいご提案ありませんか。

○委員(田中藤一郎) 個人的には明石に行ってみたいですけど。

○委員長(奥村 忠俊) 明石だったら日帰りで行けますよね。

○委員(田中藤一郎) 個人的ですけど。

○委員長(奥村 忠俊) 子育て支援ね。

今、田中さんのほうから、もう1カ所、明石に行つてというお話もあるんですけど。

○委員(椿野 仁司) ちょっと田中君だけが2年続

きで残ってるんだけど、昨年は何か聞くところによると、いわゆる少し表現は別としても、過疎的な地域をずっと見てきたというところだったんだけど、ただ見たってだけで終わっちゃうんだよな、結局な。

○委員（田中藤一郎）　そうですね。

○委員（椿野 仁司）　対策にはならない。どないですか。

○委員長（奥村 忠俊）　これは、例えば今出ましたように、視察ということにまたなるんですけど、もし仮の話、明石となってくると。そうすると、バス借りたりすることになりますのでね。泊まる必要はないんで、時間的には若干遅くなっても問題ないんですけども、どうですか、委員会としてそれはどうなんですか。

○委員（椿野 仁司）　管内なら管内、日帰りだからそれで見ておくと、それは別にいいと思いますよ。でも会うなら市長に会わなあかん。

○委員長（奥村 忠俊）　でも忙しいで、向こうも。

○委員（椿野 仁司）　でも結局、市役所に聞いたところで、通常の話ししか返ってこないんじゃないかな。だから、やっぱり市長のその熱い思いというか、そういうところ辺がな。一回ぶつかったらいいじゃない、市長の話を聞きたいって。今だったらちょうど答えてくれるんちゃう。乗るととこだ。

○委員長（奥村 忠俊）　当選しなったんでね。

○委員（椿野 仁司）　田中君、市長秘書室、あんた言い出しっぺだで、市長秘書課に電話して、こうこうなんだけど、可能なのか不可能かちょっと言うてみたらどないや。

○委員（田中藤一郎）　わかりました。

○委員長（奥村 忠俊）　相手さんがありますし、その辺、委員会でバスを借りていかんなんということになるので、それなりの予算も必要かなと思ってみますので、そういうことができるのかどうかいうのはね。

○委員（椿野 仁司）　予算っていても日当だけだろう。

○委員長（奥村 忠俊）　市のマイクロだったらね。

そしたら、それをちょっと調整してもらって、打診して市との調整ができればということできさせていただけますか。

○委員（椿野 仁司）　可能か不可能か、チャレンジ。

○委員長（奥村 忠俊）　向こうも忙しいと思うわ、なかなかね。

○委員（伊藤 仁）　市長は忙しいけど、視察は多いだろうな。

○委員（椿野 仁司）　いや、今はいいんじゃないの、市長に視察を申し入れしてするようなどはあらへんと思うで、議会で。

○委員（田中藤一郎）　ダイナミックにね。

○委員（椿野 仁司）　やってみたら。

○委員長（奥村 忠俊）　豊岡の市長の話を聞きにというのもいっぱいあるんでしょうか、豊岡市は。

○委員（椿野 仁司）　それは知りませんけども。

○委員（田中藤一郎）　声が小さくなってる。

○委員（椿野 仁司）　田中君、でも要は、結局、人口減少問題って、あそこは移住、子育てということでもすごい。非常にそのお話を聞きたいと、市長みずからのね。でも神戸や周りからは恨まれとる。引っ張られるでしょ。

○委員（田中藤一郎）　でも、それはしゃあない。

○委員長（奥村 忠俊）　そしたら、委員会のほうの一つの視察先として、勉強しに行かせていただくということも事務局と相談しながら決めたいと思いますので、よろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

○委員（上田 倫久）　委員長、よろしいですか。これ新たに。

○委員長（奥村 忠俊）　これとは別個ですよ。

○委員（上田 倫久）　別個でもう一つ。

○委員（嶋崎 宏之）　管内視察だから。

○委員（上田 倫久）　管内視察のかわりに管外視察で明石に行くということですか。

○委員（嶋崎 宏之）　日帰りです。

○委員長（奥村 忠俊）　そういう方向で検討させていただきたいと思います。向こうとの日程調整ができなければ、またやりますけども。

それでは、このその他のところで今ありましたように、管内につきましても、そういう方向で一応検討してみたいと思います。

そのほか、皆さんのほうでご意見等がございましたらお出しいただきたいと思います。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（奥村 忠俊） ありがとうございます。

それでは、ないようですので、以上で本日の委員会を閉会したいと思います。ご苦労さんでした。

午前 1 1 時 1 6 分閉会
